

CASBEE神戸2010 淡路橋中学校新築工事		色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと 欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸2010 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)						
スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目		CASBEE神戸の重要項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.8</b>	0.15	-	-	2.8
<b>1.1 騒音</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 設備騒音対策						-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>						<b>3.7</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				RCビル用サッシ(複層用)T-2性能		<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能				Dr40を確保(乾式遮音壁仕様)		<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				Lr55を確保(Coスラブ150+Co増打30+ビニルシート)		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>1.3 吸音</b>						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.0</b>	0.35	-	-	3.0
<b>2.1 室温制御</b>						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 室温設定				AC設置室に関しては24℃制御は可能(普通教室はACは無し)		<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
3 外皮性能				レベル5の日射遮蔽・断熱性能を有する設計(別紙算定)		<b>5.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
4 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	-	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>						<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.5</b>	0.25	-	-	3.5
<b>3.1 昼光利用</b>						<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率				普通教室の昼光率:8%		<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備				水平ルーバーによる天井面への反射		<b>4.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
<b>3.2 グレア対策</b>						<b>1.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
2 昼光制御						<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 照度</b>						<b>4.0</b>	0.15	-	-	
1 照度				普通教室室内設計想定照度600Lx		<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 照度均斉度						-	-	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>						<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
1 共用部はリモコンスイッチにて制御						-	-	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.2</b>	0.25	-	-	4.2
<b>4.1 発生源対策</b>						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆にVOC量の少ない材料を選定する。		<b>5.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 タニコ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
4 給気計画						-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>						<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				敷地内全面禁煙		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	3.8
<b>1 機能性</b>						<b>3.7</b>	0.40	-	-	3.7
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満足している。		<b>4.0</b>	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						<b>1.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	-	-	-	
3 内装計画				発注者とコンセプトや内装計画を十分協議し実施設計に着手した。		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				汚れにくい材料・納まりを採用した。		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				メンテに極力考慮した設計とした。		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.8</b>	0.31	-	-	3.8
<b>2.1 耐震・免震</b>						<b>3.8</b>	0.48	-	-	
1 建物のつよさ		耐震性		構造用途係数Ⅱ類を確保。		<b>4.0</b>	0.80	-	-	
2 建物の揺れにくさ		耐震性				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						<b>3.8</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				(ろ)項(イ)項の最小かぶりに対してW/Cを55%以下とする。		<b>4.0</b>	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				補助資料より外壁仕上げ材の25年が一番短い。		<b>4.0</b>	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				補助資料より床仕上げ材の18年が一番短い。		<b>4.0</b>	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				露出ダクトの無い設計としている。		<b>5.0</b>	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				排水:ライニング鋼管、給水・ドレン:VPで交換周期を上げる。		<b>4.0</b>	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.23	-	-	
<b>2.3 適切な更新</b>						-	-	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>						<b>4.0</b>	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		耐震性				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		耐震性		節水機器や中水利用等を考慮している。		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備		耐震性				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震性		耐震クラスS(震度2.0G対応)		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		耐震性		通信機器の多様化、精密機器の浸水対策を行った。		<b>4.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.9</b>	0.29	-	-	<b>3.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>4.6</b>	0.31	-	-	
1 階高のゆとり			階高4m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.26(純ラメンを採用し間取りの自由度がある)	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	0.31	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>4.2</b>	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性			構造・仕上を痛めることの無いようにスペースルトを確保した。	4.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性			構造・仕上を痛めることの無いようにスペースルトを確保した。	5.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性			構造・仕上を痛めることの無いようにスペースルトを確保した。	5.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			機器取替用マシンハッチ(建具等)を確保した。	5.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース			主要機器部には予備スペースを確保した。	4.0	0.22	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		景観	圧迫感の軽減・緑化・形質の保存等のより景観形成に配慮した。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			校内はグラウンド(マサ土)が大半であるため、非透水性舗装が少	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>4.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	<b>4.5</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>			PAL320MJに対して167.2MJである。(-47%ダウン)	<b>5.0</b>	0.30	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>4.5</b>	0.20	-	-	<b>4.5</b>
2.1 自然エネルギーの直接利用			ルーバーやナイトバージを採用している。	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			太陽光パネルを採用している。	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>			ERR=48.2	<b>5.0</b>	0.30	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
4.1 モニタリング				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>4.2</b>	0.15	-	-	<b>4.2</b>
1.1 節水			節水便器や擬音装置を採用している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用				<b>4.3</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			便所の洗浄水は全て雨水を利用(足らず分は上水)	<b>5.0</b>	0.67	-	-	
2 雑排水再利用システム導入の有無				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>4.1</b>	0.63	-	-	<b>4.1</b>
2.1 材料使用量の削減				<b>3.0</b>	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				<b>3.0</b>	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			高炉セメント	<b>4.0</b>	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			舗装用ブロック、タイル、集材材、人工木 等	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			フローリング材や集材材は全て対応品を使用。	<b>5.0</b>	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			乾式化を図り、極力分別の可能な設計としている。	<b>5.0</b>	0.24	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>4.0</b>	0.22	-	-	<b>4.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質の含まない材料を採用する。(最低でも4つ以上)	<b>5.0</b>	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				<b>3.6</b>	0.68	-	-	
1 消火剤			消化器は、粉末消化器を使用。	<b>4.0</b>	0.33	-	-	
2 断熱材				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
3 冷媒			新冷媒を使用。	<b>4.0</b>	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			CO2排出率61%	<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
2.1 大気汚染防止			基準より大幅に少ない濃度。(燃焼器機は瞬間湯沸器程度)	<b>4.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	-	-	-	
3 交通負荷抑制			実質必要な駐車台数を確保し、メンテ用駐車場も校内に確保した。	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音				<b>3.0</b>	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
<b>3.2 風害、日照阻害の抑制</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制				<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2 日照阻害の抑制				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの項目を過半満たしている	<b>5.0</b>	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-	